

四国の風景街道通信

2009.3

1. 開会挨拶
2. ルート紹介
3. 基調講演
4. 意見交換
5. 今後の予定
6. 閉会

四国風景街道協議会

【第2回交流会】が開催されました

●とき 2009.3.13 (金)
●ところ サンポートビル高松54会議室

基調講演

シーニックバイウェイを活かした地域づくり

支笏洞爺ニセコルート代表 泉谷氏

■シーニックバイウェイの発想は斬新で、それは今までの事業の発想を逆転させ、地域や住民主体の事業展開をしているという点です。

■シーニックバイウェイ北海道とは、地域の想いと3つの連携要素によりコンセプトが構成されています。

その3つの連携要素をご紹介します、「景観・美しい景観づくり」…美しい地域にしたい

「観光・魅力ある観光空間づくり」…訪れる方に観てもらいたい、増える個人型観光に対応したまちづくりをしたい

「地域・活力ある地域づくり」…愛着と誇りのもてる地域、地域経済を元気に、子供たち次世代に残せる地域に、地域の文化、歴史を引き継ぎたい

となっておりますが、このようなコンセプトをもとに、活動を工夫して継続して行くことで、協力者や参加者が生まれてきます。



■私たちがこの活動を始めた時、まず地域の資源として恵庭岳は非常に魅力的なので、道道恵庭岳公園線を視察しました。

次に、「ルックルック調査隊」を結成し、自分たちの地域の隠れた魅力的な資源を探そうという活動を行いました。

ステッカーを作ったりジャンパーを作ったり、意識を高め、参加する証を作り、そういう活動を少しずつ続けたのです。

活動の拠点を作り、広報活動はパネルを作って道の駅などあらゆることろへ張り、置かせていただき、エリアのマップを作り、フォーラムを開催しホームページを作りました。

新聞社との連携としては、コッは新聞記者にメンバーに入ってもらうということです。これで



幹事長挨拶

■中四国をまたがるしまなみ街道を含めると、四国では11のエリアで個性豊かな「風景街道」が活動されています。この風景街道は、道を舞台に文化遺産を守ったり活用したり、美しい国土形成や地域活性化、経済振興へ取り組んでいく活動ですが、課題もあろうかと思えます。

この交流会は、活動をしているみなさんに交流を深めていただくとともに、有意義な情報を交換し、課題解決など活発なご意見がいただければと思っています。

意見交換

■それぞれのルートで活動を続けられるみなさん。基調講演のあと、意見交換を行い、課題への取り組みや質問、それに応える形での事例紹介やアドバイスなど、活発なやり取りが行われました。

■まず、新規登録ルートである「土佐のまほろば風景街道」推進協議会会長より、活動資金についての質問がありました。現在はそれぞれの活動団体の取り組みをメインの活動としているが、推進協議会として新規の事業を始めるときの資金調達について、どのようにしているのかを他のルートのみなさんにお聞きしたい、ということでした。



■これには、唯一広告収入を得てイベントを展開している「むれ源平石あかりロード」より、イベントは補助金以外を自己資金として調達しており、そのほとんどが寄付と広告収入であること、また、昨年よりオリジナル商品を作ったり石材業界の展示販売を企画したりと事業展開を考えている、と事例の紹介がありました。その他にも、取り組みが広域で地元のご理解が得られているのであれば、社会貢献として自動販売機の売り上げを寄付としていただくシステムや、地域でのクレジットカードとの連携などのご紹介もありました。

■泉谷さんからは、「お金を集めて何かをやる、ということがメインなのではなく、喜んで参加

してもらって、みんなで楽しむということが大切だと思う」とのアドバイスがありました。

■活動資金の調達については他にも「いやし・もてなし神山街道」や「南いよ風景かいどう」からも、補助金の利用や活動資金を生み出す仕組みづくりに苦労しているとの意見が相次ぎました。

■広報の面では、「各ルートの資源を活用し、計画やイベントなどをどんどん内外へ情報発信する仕組みを整備局でも支援サポートをお願いしたい」（むれ源平石あかりロード）「いいイベントを開催したり素晴らしい風景があるのに、それを発信する手段がないので、写真の撮り方などレクチャーしてほしい」（南いよ風景かいどう）などのご意見がありました。

■北海道開発局からは、支援や資金の情報が支援センターに集まってきて、うまくいった事例などを他の地域が参考に出来るなど情報の共有ができていくこと、情報発信に関しては、行政連絡会議などを利用して、イベントや活動の周知と知名度をあげるサポートを行っていることなどがあげられました。

また、メーリングニュースの活用（四万十かいどう）なども事例として報告されました。

■道路景観の点検・改善について、「いやし・もてなし神山街道」より「田舎の原風景はそれだけで大きな価値になる。各ルートの中から1箇所程度をモデルケースとして修景できれば、風景街道の価値もあるのではないかと」という貴重なご意見がありました。



すと記事として紹介してもらいやすいし、宣伝費がかかりません。予算がない中で活動するわけですから、時間と知恵を出し、できる人ができることを提供し協力しあうことが必要です。また行政との連携も非常に大切なので、メンバーに入ってもらい、一緒になって汗を流せば、地域をより良くしていこうという気持ちが共通認識となります。

■発想を転換することで、何もないと思っていた風景が価値を持ち、資源として蘇ります。私たちは活動の中で、そういったものを集約させ、収益へと結びつけ、活動資金へつなげています。

■イベントもただ実施するだけではなく「おもてなしの心」「思いやりの心」を持ってやれば、例えば寒い日のイベントなら携帯カイロを配ったりするアイデア（気配り）や配慮が生まれ、それが参加者にとっては心地よいイベントとなり、その後リーダーを生む人気イベントに成長します。


■イベントや活動で参加者を募るために、テレビなどのマスコミを利用したしかけを作り、またその場を利用して、活動団体のみなさんとマスコミとつなげたり、イベントのたびに交流や連携が広がるような仕組みを作って、それを続けていくことが大事です。道路清掃についても、ボランティアのみなさんを紹介したり活動を表彰するなど、活動を情報として発信してあげるといったような良い循環を作っていくことも、モチベーションを維持するためには大切だと思います。

(抜粋)




1 いやし・もてなし神山街道 徳島県名西郡神山町

■住民主体で現在13団体ほどのグループで推進活動を行っている。一番大きな活動は神山町内の主要な道路「神山桜のみち作り」で、桜の植栽をして道路を桜の空間でつなぎ、未来へ残る「神山の桜街道」完成を目指している。将来は、街道が桜で埋め尽くされるようなすばらしい風景と、地域として活力のある神山になるようがんばっていききたい。



2 むれ源平石あかりロード 香川県高松市牟礼町

■源平合戦の史跡が点在しているので、その資源を保存、伝承活動に取り組んでいる。地域特産の花崗岩を中心とした石材の文化と、源平の史跡文化をうまく活用した地域作りとして、史跡と史跡の間を石明かりで案内し、また次への道へ石明かりでつなぐという「むれ源平石あかりロード」が生まれた。地域の賑わい作りを盛り上げ、道なみを石のまちにふさわしいものにするべく、取り組んでいる。




8 美馬市まほろば夢街道 徳島県美馬市

■水が豊かで農業ができ、ゆっくり暮らせてみんなが裕福である、というのが「まほろば」のイメージ。そのイメージを街道として命名した。重要伝統的建造物「うだつの町なみ」保存のための各種活動や、清流川下り等の各種イベントが豊かな地域資源を活用して実施されている。

■歴史や文化にふれながら、自然を楽しめるような体験イベントや清掃活動を行い、歴史・文化・自然をテーマにした、美しい街道づくりを行い、共創と協働による魅力ある地域づくりを目的とし活動している。


■大麻(麻づくり)や有機栽培を通し、自然の豊かなまち、観光と交流と特産品を、振興に役立てて行きたい。



3 源平ロマン街道 香川県高松市屋島中町


■屋島の観光文化を中心に地域活性化に取り組んでいる。屋島のウォーキングイベントでは、複数のへんろみちなどのルートなど毎回コース設定を工夫し、山上で歴史的文化的、自然などを題材にしたワークショップなどを開催している。

■屋島についてはあまり知られていないところがあるので、自然資源なども含め、認知のきっかけづくりともなっている。



4 南いよ風景かいどう 愛媛県大洲市、宇和島市、鬼北町、松野町、愛南町

■愛媛県の南予地域において、15団体がそれぞれ各地で独自の活動を行っているので、共通意識をはかるため年に一度「灯籠祭り」をみんなで開催している。地域のよさ、宝を灯籠として再認識していこうというコンセプトで、ペットボトルに見殻、絵を描いた和紙や竹の灯籠など手作りの灯籠による幻想的なライトアップイベントに取り組んでいる。


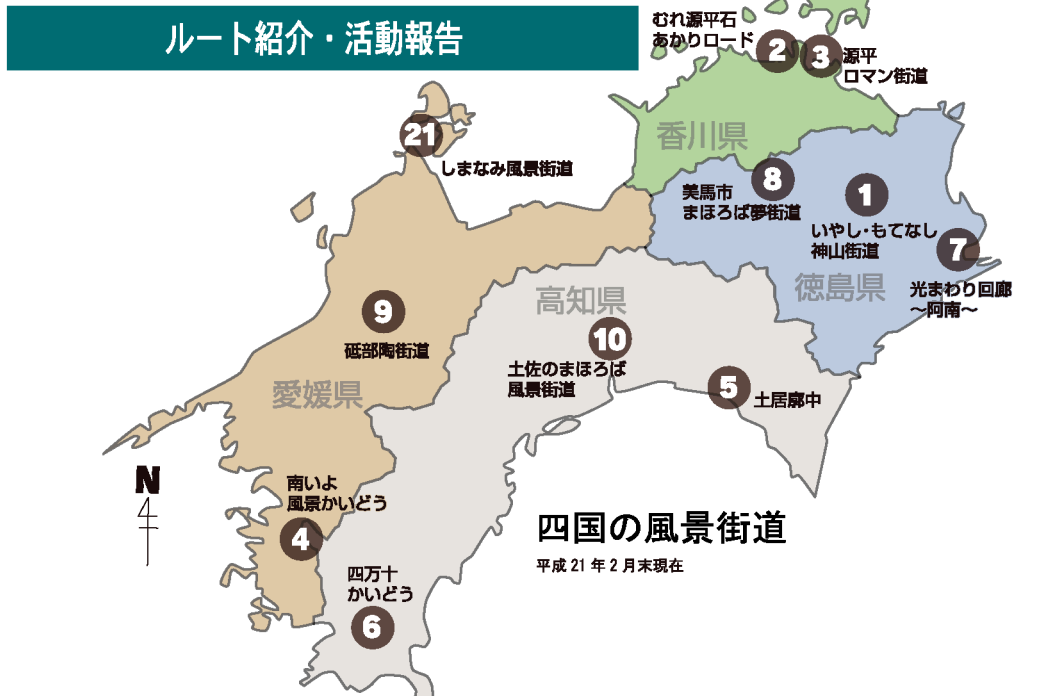


9 砥部陶街道 愛媛県伊予郡砥部町

■砥部焼を中心としたまちづくりとして、町内の名所旧跡、砥部焼に関するところを53カ所設定しそれらのポイントをつなぐスタンプラリーを企画した。特に周り方、期限などを設定することなく、自由に楽しめるラリーとして好評である。全てを回った人には、砥部焼のメダルや、砥部町関係施設の無料招待券などをプレゼントし、一度限りの企画にならないよう、メダルに毎年の方針を入れることでリピーターを確保したり、雑誌の改訂にあわせて、「陶街道検定」を行うなど、これまで数千名の参加をいただいている。


■スタンプラリーから始まったまちづくりの取り組みは民間事業者が関連商品の開発販売をしたり、地域の方が関連したミニイベントをしたり道路清掃ボランティアのみなさんが美化活動をされるなど、取り組みは広がっている。

■現在では官民一体となったまちづくりの象徴となっている。

5 土居廓中 高知県安芸市


■「小学生の風景学習プログラム」という取り組みでは、地元の小学生が地域の昔の地図や写真を元に、現在風景がどう変わったか、などを調べ、地域に残っているまちなみ、風景、景観などについて学習した。今後は「歩いて地域の良さを見つけよう」とモットーに風景学習やウォーキング、清掃などを続けていきたいと思っている。



6 四万十かいどう 高知県西南地域3市6町1村

■四万十川196キロと流域市町村10市町村の広大なエリアで、当初の動きが幡多地域から起こったこともあり、現在も幡多地域においては活発な活動が継続されている。

■日本一の作農面積を誇る大月町のコスモス祭りや四万十川の沈下橋をろうそくでライトアップする取り組みは、各地へ確実な拡がりを見せている。




10 土佐のまほろば風景街道 高知県南国市

■高知自動車道南国インターをおりて国道32号を南下、交差する国分川を中心とした約27平方キロメートルの地域で活動をはじめた。

■風景街道協議会がどのようなものであるかということを知ってもらうため最初の取り組みとして、シンポジウムを開催。地域住民の認識と理解を一定得られたように思う。南国市では23団体が活動しており、活動団体及び企業の連携をはかるかたちで協議会を進めている。

■この地域には国の史跡が3カ所も含まれており、交通の便もあり、観光資源にも恵まれている。こういう情報を団体の力で発信することによって、より県内外へ広めていけるのではないかと期待している。


■また、国分川周辺を中心とした桜並木等の植栽の取り組みを通した「道づくり・風景づくり」により南国市を更に「魅力ある地域」として活性化していきたい。



7 光まわり回廊～阿南～ 徳島県阿南市

■「光」はダイオードの本社があり、また全国的に日照時間が長いこともあり、「光まわり回廊」と命名した。

■昨年、ルートの観光資源などの整理をしたので、それを見直し、今後どう資源として活かしていくかが検討事項である。



21 しまなみ風景街道 広島県尾道市、愛媛県今治市

■「しまなみ大学事業」という取り組みでは、しまなみかいどうの沿線地域を大学のキャンパスに見立て、地域ならではの文化、歴史などを題材にした講座を実施しており、幅広い年齢層の方の参加を、多くいただいている。歴史を題材にしたものや環境学習などなどの講座も豊かで貴重な地域資源を活かしていこうという試みであり、地域の魅力を再発見し、このみちの魅力を発信していく良い手段になると考えている。

